

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2019年  
12月3日  
第75号



## シマカンギク（キク科）

今、第三圃場で黄色の頭花が見られます。現在、大菊や小菊として主として鑑賞の目的で栽培されるキクは、奈良時代以降に遣唐使によりもたらされました。キクは古くは不老長寿の妙薬とされ、平安時代の貴族は薬園にて栽培していたそうです。また、中国大陸には数字の奇数を陽、偶数を陰とし、陽の中でも9を最たるものとする思想があり、9の字が2つ重なる9月9日をとくに「重陽の節句」として祝います。この日はまた、「菊の節句」とも言われ、キクの花びらを浮かべた菊酒を飲んで長寿を祝う習わしがあるそうです。又、菊花の香りを真綿に移し、それで身体を拭くと老いが去ると信じられていたそうです。シマカンギクは、キクと同属で、どちらも頭花を生薬の菊花（キクカ）として日本薬局方に収載され、かすみ目、つかれ目、のぼせ、頭重、めまい、視力低下などに用い、杞菊地黄丸や釣藤散などに配合されています。

## ナンキンハゼ（トウダイグサ科）

カフェテリアから園内をのぞいてみますと、左側に赤熟した果実が樹冠を彩るタイワンモゾクゲンジ、中頃に褐葉したラクウショウ、そして右側にナンキンハゼの紅葉と園の秋を彩っています。ナンキンハゼは中国原産の落葉高木で、葉の面白さや紅葉の鮮やかな色合いで、最近は街路樹や公園樹としてもよく植栽されています。紅葉とともに熟した果実が裂け、白い蠟に覆われた種子が現れます。ここから得られる烏臼（ウキウ）油は、ロウソクや石鹼、塗料の原料にします。また、根皮および樹皮は、かつては住血吸虫に対する駆虫薬、瀉下薬として使用していましたが、毒性があり、現在ではほとんど使用されません。

今、こんな草木が楽しめます！！